

夢塾だより

～ 自己肯定感 ～

(第72号) 令和5年7月24日

人間には二つのタイプしかないといいます。自分から挨拶する人と、自分からは決してしない人。

これまで生徒と対面して気づきました。伸びる生徒は自分から挨拶します。プラスのエネルギーが内在していて、そのエネルギーを周りの人にも与えています。だから、一緒にいて気持ちがいいし、こちらもパワーをもらえます。そんな子は新しく学ぶことにも貪欲ですぐに快感を見つけていきます。

一方、本人は気づいていませんが、マイナスの空気を出している子もいます。自分からは挨拶しません。

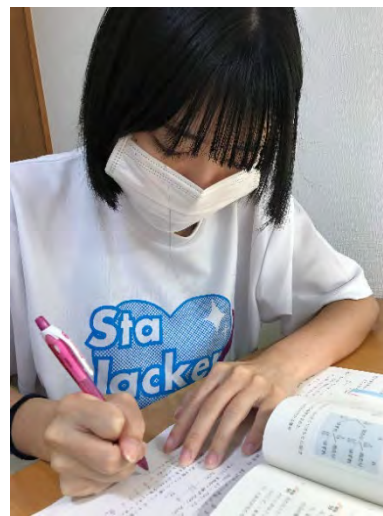
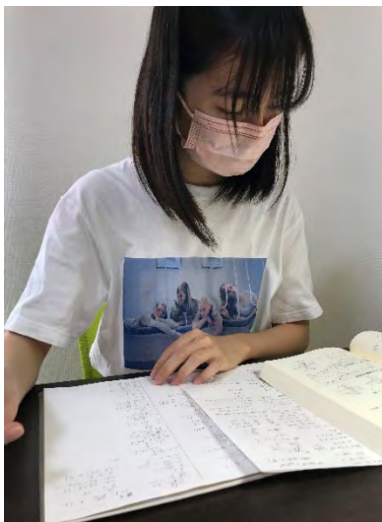
この違いはどこからくるのだろうと考えたときに、思い当たることがあります。

「自己肯定感」です。自己肯定感の強い子は周りにもいい影響を与えます。

では、教師の立場でどうすれば生徒の「自己肯定感」を高めてあげられるかという、その子に興味を持って接することです。

興味を持てば小さなことにも気づきがあり、それは褒め言葉に現れます。先生に褒められると生徒は「幸せ」になります。

親の場合は我が子を、黙って見ているのではなく、些細な事でも「褒める言葉がけをすること」です。



褒められて育った子は自己肯定感が増します。自己肯定感こそが自分の『幸せ感』を決めるのです。

親や教師のやるべきことは、子の自己肯定感をあげることだと思ふのです。

夢塾の生徒は皆、挨拶が上手です。

(写真は、7月23日の新都心校の生徒です)